

小松原地区地域福祉活動計画

～世代をこえて 笑顔でつながる 小松原～



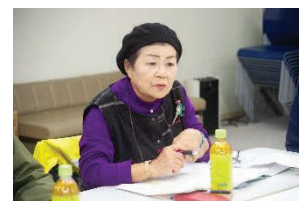
大王町のイチョウ並木

令和8年3月

《小松原地区地域福祉活動計画策定委員の皆さん》



～小松原地区第5次活動計画策定にあたって～



小松原地区の地域福祉活動は、これまで多くの人々の温かな手によって支えられてきました。現在、地域にはさまざまな課題がありますが、今あらためて大切にしたいのは、「人と人とのつながり」と「たすけあいの心」です。

子どもから高齢者まで、世代をこえて手を取り合い、誰もが笑顔で暮らせるまち、そして、支える側のボランティアや住民の皆様も元気に活動が続けられる、そんな持続可能な地域づくりを目指します。まずは自分たちの身近なところからできることから一歩ずつはじめてみませんか。

この計画が皆さまの「お互いさま」の輪を広げる道しるべとなることを願っております。今後とも、活動へのご理解ご協力をお願い申し上げます。最後になりましたが、本計画の策定にあたり、委員をお引き受けいただいた皆様、ならびに関係機関のご支援に心から感謝申し上げます。

小松原地区地域福祉活動計画策定委員会
委員長 川路 豊子

《策定委員会の進め方》

第1回

過去5年間の地域活動で感じた良い変化（うれしかったこと、ほっこりエピソードなど）を出し合い、共感したものに投票。選ばれたエピソードを深掘りし、大事にしてきた価値観を共有しました。



第2回

前回出し合った全員分のエピソードを深掘りし、それぞれの思いや大切にしている価値観のキーワードを整理（カテゴリー分け）しました。「こども」や「あいさつ」に関するキーワードがたくさん出てきました。



第3回

第1回・第2回のキーワードをもとに作られた行動指針と照らし合わせながら、現状の取り組みとこれからの取り組み（令和8年度から12年度）について話し合いました。



第4回

これからの取り組みを実現するための具体案を、「組織体制」「財源」「事務局機能」「拠点」の視点から考えました。いまあるもの、これから巻き込みたい人たちなど、多様な意見が出されました。



第5回

これまで検討してきた計画シートを委員全員で確認し、大切にしたい価値観・キーワードをもとに、小松原地区の新スローガンを決定しました。



地区社協のあゆみ①

【これまでの経緯】

- 平成 5年 小松原地区福祉推進委員会設立
平成19年 小松原地区社会福祉協議会へ改称
平成22年 大王小学校参観日預かり保育実施
家族介護者交流事業実施 平成28年より在宅介護者のつどいへ
平成29年 夏休みこどもサロン実施～2自治公民館で開催
令和 1年 買い物支援サービス「わくわくワゴン」開始
令和 3年 いきいきスマイルお届け便開始
令和 5年 合同福祉スポーツ大会実施
令和 7年 買い物支援サービス「わくわくワゴン」隔月実施へ

【受賞歴】

- 令和2年 都城市社会福祉協議会会長表彰
令和3年 都城市長表彰
令和4年 宮崎県社会福祉協議会会長表彰
令和7年 みやざき社会貢献活動表彰

【主な事業】

- ・ふくしなんでも相談窓口の開設（毎週火曜日 10：00～15：00 開設中）
- ・ふれあいいきいきサロン支援事業（自治公民館単位）
- ・いきいき90歳写真展
- ・在宅介護者のつどい
- ・いきいきスマイルお届け便
- ・買い物支援サービス「わくわくワゴン」
- ・福祉合同スポーツ大会（自公連・民児協・施設など福祉関係者の交流事業）
- ・地域・福祉施設意見交換会（地区内福祉施設との意見交換・情報交換）
- ・小松原地区社協だより発行（年1回発行・各戸配布）

【組織体制】

- （役員）会長1名、副会長2名、事務局長1名、会計1名、監事2名
（構成団体）小松原地区自治公民館連絡協議会、小松原地区民生委員児童委員協議会、小松原地区ボランティア連絡協議会、小松原地区高齢者クラブ連絡協議会、大王小学校PTA、小松原中学校PTA、地域包括支援センター、社会福祉施設

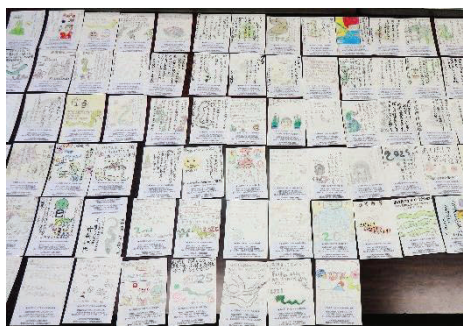
地区社協のあゆみ②



いきいき90歳写真展

小松原地区まつりにて、地域で90歳を迎えられた方の写真を飾る取り組みです。

見る人に元気を与えるだけでなく、地区社協が高齢者の元気や生きがいづくりを推進している事業として定着しています。



いきいきスマイルお届け便

大王小学校の子どもたちの手作り絵葉書を、地域の高齢者の方々にお届けする取り組みです。

受け取られた高齢者の方はとても感謝され、地域内での交流活動にもつながっています。



買い物支援サービスわくわくワゴン

社会福祉法人まりあと小松原地区社会福祉協議会が協働して買い物支援活動を実施しています。

毎回楽しみに待っておられ、車の中は話に花が咲きます。



在宅介護者のつどい

ご自宅で介護されている方等を対象に介護に関する学習会やリフレッシュの場として開催しています。介護者の孤立防止にもつながっています。

創造の道すじ ～笑顔と安心を生み出す「好循環（サイクル）」～

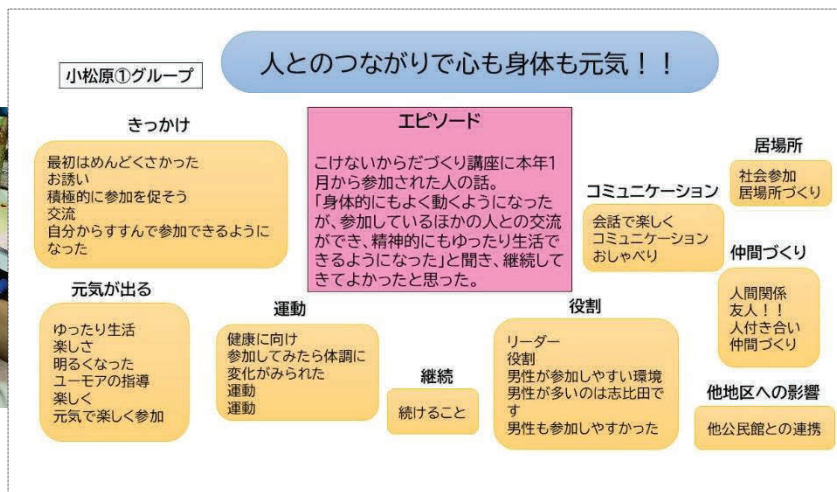
第5次地域福祉活動計画を策定するにあたり、全15地区で現状の「課題・願望」と未来への「想い」をシートに書き出しました。そこには現場のリアルな熱い想いが詰まっています。

1. 地区の全体スローガン：これから5年間の目指す地区全体の指針とは？

⇒第5回策定委員会（最終回）では、地区全体のスローガンを決めました。

2. 行動指針：地域での活動や取り組みを導く大事な価値観とは？

⇒第1回～2回策定委員会では、「最もすごいチェンジ」を出し合いました



◆第5次都城市地域福祉活動計画「〇〇〇地区地域福祉活動計画シート」（抜粋）

地区全体スローガン	行動指針	活動・事業
<p>世代をこえて 笑顔でつながる 小松原</p>	<p>地区内のさまざまな活動を知ってもらい、仲間づくりを進め、「住民の声」を大切に取組んでいこう。</p>	<p>○買い物支援サービスわくわくワゴン ・免許返納した高齢者の移動支援。近隣のスーパーへ社会福祉法人（まりあ）の協力により送迎実施（2か月に1回、偶数月に実施）</p> <p>○社会福祉施設との意見交換会 地区内の福祉施設（児童、高齢、障害全分野にお声掛け）との意見交換</p> <p>○広報紙発行 各戸配布（公民館加入世帯；約2,000世帯）、年1回</p>

これまでの活動を整理し、未来へ向かってどう進んでいくか、「その道すじ（ロジック）」を解説します。

3. 実現に向けて必要なこと：その価値観を大事に、実現に向けて必要なことは？

⇒第3回～4回策定委員会では、「これから取り組むこと」「何が整えば実現できるか」を話し合いました。

【入り口（楽しさ・共感）：人が集まる】

多世代・笑顔・わくわく・サロン・顔見知りを増やす・参加へのハードルを下げる

↓ ここから信頼が生まれる ↓

【深まり（信頼・支え合い）：相談できる】

ちょっとした困りごと・キャッチ・見守り・楽しい場でできた関係性から

↓ これが安心をつくる ↓

【土 台（持続可能な仕組み）：無理なく続ける】

拠点・IT・自主財源

新「地区社協」創造への道すじ

実現に向けて必要なこと

目指す
地区社協像

これから取り組むこと

何が整えば実現できるか

【確固たる協力体制へ】

- ・買い物支援実施回数の検討
- ・買い物支援のあり方の検討
(地区の課題としてまちづくり協議会と意見交換)
- ・複数事業所の参画

【福祉施設との連携】

- ・定期的な意見交換会の実施
- ・各施設の地域貢献に関する情報収集

【発信方法の多様化】

- ・設置場所の拡大
- ・各学校の sigfy の活用
- ・施設のおたよりに地域コーナーという形での掲載

①【組織体制】

- ・地区内福祉施設の参加
- ・福祉施設やこまボラとのコラボ

②【財源】

- ・社会福祉法人の地域貢献の一環で実施
- ・地区社協やまちづくり協議会の予算を活用する
- ・企業協賛

③【事務局機能】

- ・継続に向けての検討
- ・地区内福祉施設の地域貢献事業などの把握
(アンケートの実施；協力できるか、連携できることがあるか)

- ・福祉施設と地域との意見交換会の実施

- ・地区内福祉施設一覧の作成

- ・発信方法の多様化に伴う、学校や企業、施設への依頼

④【拠点】

- ・地区公民館など

※これ以降を参照

第5次都城市地域福祉活動計画の体系図

第5次都城市地域福祉活動計画 全体スローガン

笑顔でつながり 未来を綾なす 新しい地域

新「地区社協」創造

3つの行動原則

1. 「ゴール」を目指す姿 笑顔が集まる、誰もが主役になれる居場所をつくる
2. 「エンジン」推進力 多様な力とつながり、広がる共感で地域を動かす
3. 「ベース基盤」 小さな「困った」を見逃さず、無理なく支える仕組みをつくる

実現のための4つの創造

1. 組織体制：「固定化」から「チーム戦」へ
2. 財源：「依存」から「稼ぐ力・応援される力」へ
3. 事務局機能：「事務処理」から「つなぎ役」へ
4. 拠点：「会議室」から「あたたかい居場所」へ

15地区地域福祉活動計画

姫 城／「優気」をもってふれあって 学びあってつながろう 姫城の宝たち ～姫 LOVE 増殖中！～

妻ヶ丘／笑顔で声かけ 未来へつなぐ 妻ヶ丘

小松原／世代をこえて 笑顔でつながる 小松原

祝 吉／未来につなぐ笑顔のまち祝吉 ～ありがとうをいっぱい咲かせよう～

五十市／誰もが まんなか 活気あふれる いそいち

横 市／みんながつながる横一愛

沖 水／ささえ愛 笑顔でつながる 沖水の和

志和池／みんなの笑顔でつながる未来へ ほっぶ すてっぶ 志和（しゅわ）っ池（ち）！

庄 内／地域を愛し、お互いさまの心でみんなが支え合うまち・庄内

西 岳／西岳1チーム お互いさまで、ほっこりにっこり～ぼちぼちやってみろかい～

中 郷／みんな元気 笑顔あふれる なかんごう ～こども・未来・絆～

山之口／すべての住民が、いつまでも住み慣れた地域で豊かに生きがいを持って生活するために

高 城／未来へつながる ほっこり思いやりのまち高城

山 田／ふれあい、ささえあい、つながりあう 福祉のまちづくり

高 崎／支えあい未来につながる★きりり★高崎

都城市社協経営基盤強化計画

1. 組織・人材

2. 財政

3. 事業

4. 拠点

MSCのエピソード

○活動を通じて地域でおこった変化「良かったこと」「うれしかったこと」

※Most Significant Change (MSC) ≡ 「最もすごいチェンジ」



中学校の清掃活動をボランティア活動として呼びかけたところたくさんの保護者・職員が参加してくれた



ボランティア活動を5年生のころから毎朝おこなった。市から賞ももらって、継続してやってきてよかったと誇らしかった。



「こけないからだづくり講座に最近参加されるようになった方から、体もよく動くようになったが他の人と交流できるようになってゆったり生活できるようになった」と言われ、継続してきてよかった。

ほかにもこんな素敵なエピソードがありました！

- 朝の見守り活動で子どもたちがだんだん挨拶できるようになってきた。
- 登校中に通りかかった人にあいさつをしている子どもが多くなってきている。
- 朝の見守り活動を継続してきたおかげで小学生と話がしやすくなった。
- 年に3回いたみろかいでおこわや赤飯を作って高齢者宅へ届けている。作るボランティアも元気になり、高齢者にもとっても喜ばれている。
- 公民館主催のもちつき大会で親子の参加人数が増えてきた。喜んでもらえているのがわかってうれしかった。
- 地域の子ども見守り活動で小学1年から見守っていた子どもが高校生になり、部活で大活躍中ときいてとてもうれしかった。
- 施設で菜園活動をしているが、苗をいただいたり、一緒に野菜を植えたりとご近所さんとの交流が増えてきている。
- 夏休みの子どもの居場所である子どもサロンができるようになった。

行動指針	現状	これから取り組むこと (令和8年度～令和12年度)
<p>‘気づき’を大事にし、声をかけあい、困ったときに「ひとりじゃない」と思える地域を作っていきましょう。</p>	<p>① ふくしなんでも相談 ・地区公民館にて毎週火曜日 10時から15時開設</p> <p>② 在宅介護者のつどい ・介護経験のある住民、関係機関を対象とした講習会および集いの場の提供（年2回）</p>	<p>【出張相談開設】 ・より身近なところで相談できる相談室</p> <p>【学びの場へ】 ・多様なジャンルを準備し、学べる場として設定 (スマホ講座、〇〇学習会、〇〇体験会、こまボラとのコラボ企画など)</p> <p>【名称検討】 ・相談がないと行けない場所とならないような名称変更の検討 ・立ち寄りやすい場所としての名称</p> <p>【事業対象者の再検討】 ・現在介護中の方以外の参加の検討</p> <p>【あり方の検討】 ・若い世代もターゲットとした学習会などへの移行</p>
<p>ゆるやかなつながりを大事に、誰もが社会しと関われる地域をつくっていきましょう。</p>	<p>③ いきいき90歳写真展 ・小松原地区内で90歳を迎える方の写真を11月の地区まつりにて展示（A4サイズぐらいの額に入れて展示）</p>	<p>【展示方法の工夫】 ・展示の趣旨や対象者からのコメントなどを入れ、子どもたちでも一目でわかるような工夫を行う</p> <p>【対象者の情報共有】 ・自治公民館や民生委員児童委員と連携し、対象者の把握に努める</p>

笑顔でつながる 小松原

<p style="text-align: center;">実現するために必要なこと ①組織体制、②財源、③事務局機能、④拠点</p>	<p style="text-align: center;">目指す地区社協像</p>
<p>【組織体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開設日のさらなる周知を図る ・こまボラとのコラボ企画を実施 ・自治公民館やPTA 組織などの活用 <p>【財源】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国庫補助金の活用（ふくしなんでも相談員報酬） ・市社協、市地区社協連協助成金の活用 ・高齢者福祉施設の協賛 <p>【事務局機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・茶話会やサロンなどの場として実施→立ち寄りやすい場所へ ・電話での相談対応をおこなう ・公民館報や公民館放送などでの周知啓発を進める ・ケアマネジャーや包括支援センターなどの専門職に対してチラシ等を配布する ～専門職を地域につなぐ窓口としての機能を有する ・当事者の意見聴取（在宅介護者のつどい） （介護する前に知っておきたかった情報や求めているものなどをアンケート調査） ・世代別学習会の実施（在宅介護者のつどい） ～テーマ／若い世代…相続など、高齢者／終活など <p>【拠点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出張相談開設のため自治公民館を活用 ・地区公民館や福祉施設の活用 	<p>①組織体制:「固定化」から「チーム戦」へ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人脈を活かし、幅広い人に声掛けしながら年齢層の厚い組織体制にする ・地区社協担当者の増員 ・学校関係者の役員・理事参入 ・関係機関とつながりのある地域 ・専用事務室の確保 ・有給職員の雇用 ・法人格の取得（NPO法人、一般社団法人等） ・策定委員会のメンバーを構成メンバーにする ・有償ボランティアの拡大
<p>【組織体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こまボラへの協力依頼、自治公民館長との連携 <p>【財源】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市社協助成金を活用 <p>【事務局機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区まつりでの展示（この事業の魅力を最大限引き出す） <p>【拠点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区まつり 	<ul style="list-style-type: none"> ・地元企業の参画 ・動きやすいポストづくり

行動指針	現状	これから取り組むこと (令和8年度～令和12年度)
<p>つながりと関わりを大事にしながら、だれでも参加しやすい環境を整え、参加者もボランティア自身も楽しく活動できる地域を目指しましょう。</p>	<p>④ ふれあいいきいきサロン活動 ・自治公民館ごとに実施</p> <p>⑤ こけない体操 ・各自治公民館での介護予防（栄町以外の公民館で実施中）</p> <p>⑥ こどもサロン活動 ・各自治公民館における夏休み期間中のこどもの居場所づくり</p> <p>⑦ 傾聴や寄り添いボランティア研修の実施</p>	<p>【活動バックアップ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施していないところへの働きかけ <p>【サロンのあり方の検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災の要素を取り入れた活動へ（炊き出し訓練や防災講座など） ・参加対象の拡大（公民館未加入者の参加、三世代交流） ・参加対象の限定（男性だけの場の設定） ・日程の調整（子ども世代が来れる土日開催も検討） ・機会の創出（食事会や外出の機会も設ける） <p>【中学生の力を活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材確保～中学生の活用 ・中学生の居場所としても認識して実施 <p>【メニューの多様化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な切り口で参加の間口を広げる
<p>地区内のさまざまな活動を知ってもらい、仲間づくりを進め、「住民の声」を大切に組みんでいこう。</p>	<p>⑧ 買い物支援サービスわくわくワゴン ・免許返納した高齢者の移動支援。近隣のスーパーへ社会福祉法人（まりあ）の協力により送迎実施（2か月に1回、偶数月に実施）</p> <p>⑨ 社会福祉施設との意見交換会 ・地区内の福祉施設（児童、高齢、障害全分野にお声掛け）との意見交換</p> <p>⑩ 広報紙発行 ・各戸配布（公民館加入世帯；約2,000世帯）、年1回</p>	<p>【確固たる協力体制へ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・買い物支援実施回数の検討 ・買い物支援のあり方の検討（地区の課題としてまちづくり協議会と意見交換） ・複数事業所の参画 <p>【福祉施設との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的な意見交換会の実施 ・各施設の地域貢献に関する情報収集 <p>【発信方法の多様化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設置場所の拡大 ・各学校の sigfy の活用 ・施設のおたよりに地域コーナーという形での掲載

<p style="text-align: center;">実現するために必要なこと</p> <p style="text-align: center;">①組織体制、②財源、③事務局機能、④拠点</p>	<p style="text-align: center;">目指す地区社協像</p>
<p>【組織体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども会、PTA、こまボラとの連携 ・こまボラやPTA 世代との連携 ・働く世代の巻き込み <p>【財源】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区社協助成金の活用 ・自治公民館未加入者からの参加費徴収 ・まちづくり協議会との連携 ・市社協子どもの生活・学習支援事業助成金活用（こどもサロン） <p>【事務局機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助成ルールを明確化する ・地区にとらわれない参加の場所の確保 ・サロン実施の意義を伝えていく ・関係者との協議の場の設定 ～長期休みにおける子どもの現状などを共有し、できることはないか考える場として ・小学生だけでなく中学生の居場所としての活用 ・プログラムの開発（ボランティア研修） ～若い世代が参加しやすいメニューの開発 ・人材養成、ボランティア派遣調整（ボランティア研修） <p>【拠点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治公民館や地区公民館の活用 ・自治公民館未加入者も参加しやすい場所の確保（空き家の活用など） 	<p>②財源：「依存」から「稼ぐ力・応援される力」へ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法人サポーターの募集 ・協賛企業（スポンサー）の発掘 ・自主財源確保のためのツール開発 ・社協のファンを増やして財源確保 ・サロン等のイベント参加費 ・地区社協の宝くじ（抽選方式の協賛） ・人材を活かした収益事業（演奏、手品） ・物品販売 ・場所、物の貸し出し ・有償サービスの導入 ・忌明け寄付の活用
<p>【組織体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区内福祉施設の参加 ・福祉施設やこまボラとのコラボ <p>【財源】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉法人の地域貢献の一環で実施 ・地区社協やまちづくり協議会の予算を活用する ・企業協賛 <p>【事務局機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続に向けての検討 ・地区内福祉施設の地域貢献事業などの把握（アンケートの実施；協力できるか、連携できることがあるか） ・福祉施設と地域との意見交換会の実施 ・地区内福祉施設一覧の作成 ・発信方法の多様化に伴う、学校や企業、施設への依頼 <p>【拠点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区公民館など 	

行動指針	現状	これから取り組むこと (令和8年度～令和12年度)
<p>子どもたちの力を活かしながら、人と人がつながるきっかけを増やしていきましょう。</p>	<p>⑪ いきいきスマイルお届け便 ・小学生に年賀状を作成してもらい地区内の90歳以上の方や一人暮らし高齢者などへお届け（100通ほど）</p>	<p>【きっかけづくり】 ・交流のきっかけとしての活用</p> <p>【周知啓発】 ・作成してくれる児童およびその親世代への周知</p> <p>【対象者の検討】 ・施設入所者や年齢制限撤廃も視野に入れた検討</p>
<p>“困っている”ことをキャッチできるように、日頃のつながりを大事にしていこう。</p>	<p>⑫ 個別ケース検討会の実施</p>	<p>【課題共有の場の設定】 ・関係者で共有、協議できる場の設定 ・生活支援コーディネーターや民生委員、自治公民館長との定期的な意見交換</p>

<p style="text-align: center;">実現するために必要なこと</p> <p style="text-align: center;">①組織体制、②財源、③事務局機能、④拠点</p>	<p style="text-align: center;">目指す地区社協像</p>
<p>【組織体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校との協働、こまボラとのコラボ <p>【財源】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市社協助成金の活用 <p>【事務局機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報などを活用した親世代への事業周知 ・こまボラとの情報交換の実施 <p>【拠点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学校や地区公民館など 	<p>③事務局機能：「事務処理」から「つなぎ役」へ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局員の配置 ・相談窓口の多機能化（専門相談会、サロン実施） ・週5日開設 ・地区社協にボランティアコーディネーターの配置 ・地区担当2人体制 ・ICTの活用（報告書類の簡略化、デジタル化） ・いろいろな事業で企業とコラボ
<p>【組織体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活支援コーディネーターとの連携 <p>【財源】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市社協助成金活用 <p>【事務局機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活支援コーディネーターの活動発信 ・事例共有会の実施 ・学べる場の設定 <p>【拠点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区公民館、自治公民館 	<p>④拠点：「会議室」から「あたたかい居場所」へ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専用机を地区公民館内に配置する ・子どもの居場所の開設 ・空き家・空き教室を活用した居場所づくり ・1地区に複数（2つ以上）の拠点化 ・小学校区でのミニサテライト ・なんでも相談室を雑談室に

地区の風景



夏の風物詩～神柱宮の六月灯 おかげ祭り～

策定委員名簿

○委員長：川路 豊子 ○副委員長：平嶋 弘平

No.	氏名	所属
1	川路 豊子	小松原地区社会福祉協議会会長・地域ボランティア連絡協議会
2	平嶋 弘平	小松原地区社会福祉協議会副会長・自治公民館連絡協議会
3	平川 道子	小松原地区社会福祉協議会副会長・民生委員児童委員協議会
4	西川 百喜子	小松原地区社会福祉協議会事務局長・民生委員児童委員協議会
5	木村 純子	小松原地区社会福祉協議会会計・民生委員児童委員協議会
6	田村 真樹	小松原地区社会福祉協議会理事・自治公民館連絡協議会
7	本田 隆志	小松原地区社会福祉協議会理事・民生委員児童委員協議会
8	谷山 浩三	小松原地区社会福祉協議会理事・地域ボランティア連絡協議会
9	竹下 道彰	小松原地区社会福祉協議会理事・大王小学校 PTA
10	本田 耕三	小松原地区社会福祉協議会理事・小松原中学校 PTA
11	坂下 修	小松原地区社会福祉協議会理事・高齢者クラブ
12	日高 由梨	小松原中学校 1年 (こまボラ)
13	南脇 花奈	小松原中学校 1年 (こまボラ)
14	清永 治彦	認定こども園ひばり保育園園長
15	安藤 大介	社会福祉法人まりあ ショートステイまりあ管理者
16	堀内 大敬	社会福祉法人ゆいまーる施設長
17	押川 祐一郎	妻ヶ丘・小松原地区地域包括支援センター管理者
18	橋口 浩太郎	小松原地区まちづくり協議会事務局長
19	広瀬 功三	市議会議員
20	岩田 マチ子	小松原地区第2層生活支援コーディネーター